

学校支援を積極的に進めよう

～ 子どもを育て・守る PTA による学校支援 ～

田原市立神戸小学校 PTA

1 学区及び学校の概要

本校は、田原市の南に位置し、学校の周辺には畑やビニールハウスが広がり、美しい自然に恵まれた素晴らしい環境にある。全校児童は275人、学級数は15学級で、校訓「まごころ～心身ともに健康で、知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かな実践力のある児童の育成～」のもと、教育活動を行っている。

2 研究のねらい

神戸小学校区では、地域の協力を得ながら「子どもの学びを支える活動」「子どもの健康・安全を守る活動」を推進している。人口の減少という課題があり、活動内容を精選していきながら地域と連携し、子供たちの成長を支えていく体制を整えていくことが求められており、その在り方を研究していく。

3 研究の仮説

「子どもの学びを支える活動」や「子どもの健康・安全を守る活動」の視点で教育活動への支援を地域と連携しながら見直しと充実を図ることで、子ども・学校に寄り添った、持続可能な学校支援を整えていけるであろう。

4 研究の方法

(1) 子どもの学びを支える活動

(2) 子どもの健康・安全を守る活動

2つの活動を通して、PTA 役員・会員だけでなく、地域の方々と子どもが触れ合う機会をつくり、効果の検証を行う。

5 研究の実践

(1) 子どもの学びを支える活動

ア たけのこ掘り

2年生の児童は、毎年地域の「奉賛会」の方から声をかけていただき、校区の大宮神社にある竹林で「たけのこ掘り」を行っている。2年生の児童は、奉賛会の方の説明を食い入るよう聞き、生育がよくちょうどよい大きさのたけのこをたくさん採ることができた。採れたたけのこは、自分たちで調理しおいしくいただいた。地域の自然や地域の方の思いなどに触れるよい学習の場となっている。



イ 米づくり

5年生は地域の方から田んぼを借り、農家を営んでいる保護者に協力を依頼して「米づくり」をした。6月に田植えをし、9月に稲刈り、脱穀を行う。田植えでは、稲の植え方などの説明を聞き、手で植えたり、実際に田植え機に乗って稲を植えたりした。9月には、保護者やPTAの支援のもと稲刈り、脱穀を行った。3学期は、自分たちの収穫したもち米を使い餅つき大会を行う。ここでは、保護者やPTAの方々に協力を呼びかけ、準備から片付けまで支援していただいている。子供たちは杵と臼で実際に餅つきをする。お餅ができていく過程が珍しいのか子どもたちの目はきらきらしていた。子どもたちにとって貴重な体験をすることができた。

(2) 子どもの健康・安全を守る活動

ア 学校保健委員会

毎年、学校とPTA共催の形で行っている。今年度は、「元気いっぱい朝ごはん赤・黄・緑をそろえてパワーアップ!!」をテーマに、朝ごはんを食べる大切さを学んだ。事前に行った朝食についてのアンケート結果を発表しその後、栄養教諭から、クイズを交えて「からだスイッチ」「あたまスイッチ」などを押すことのできる食品を朝ごはんで食べることが大切というお話をいただいた。改めて、朝ごはんを食べる大切さを知ることができ、朝ごはんについての在り方を見直す機会となった。

イ PTA交通安全モニター、通学路危険箇所調べ

学校とPTAそして地域が一体となり通学路危険箇所調べと交通安全該当指導をしている。子どもたちが安心して登下校できるように、そして、通学路の安全を確保するために行っている。通学路危険箇所調べは毎年行い、危険箇所を再確認し、子どもたちの身を守る上で欠かせないものとなっている。さらに地域では、子どもたちの安心・安全を願って「ながら見守り隊」が発足している。それによって、子どもたちを守ろうとする関心の高まりや広がりを感じている。また今年は、PTA委員が学校の校門であいさつ運動も行った。



6 研究の考察

子どもの学びを支える活動では、年間を通して米づくり、たけのこ掘りなどPTA役員と委員、地域の方が中心となって学習支援をしていただく機会を設けたことで子どもたちの体験の幅が大きく広がり、教育活動が充実した。

子どもの健康・安全を守る活動では、「通学路危険箇所調べ」「交通安全街頭指導」「ながら見守り隊」への参加などにより「子どもは地域の宝」という意識が強くなり安全で安心な登下校が保障された。

7 成果と今後の課題

学校の教育目標を実現するためには、保護者・学校・地域の方々との連携が必要であると改めて感じた。こういった学校支援の活動を続けていることで子どもたちの心が豊かになり、成長につながっていると感じる。今後も、子供を育て、守っていくために保護者・学校・地域が連携を進めて、多くの保護者や地域の方が参加できる無理のない持続可能なPTA活動の在り方を模索しながら進めたいと考える。